

令和2年度 北海道札幌養護学校 学校評価自己評価 ～ 教職員並びに保護者による評価表集計結果から ～

1 実施方法

- (1) 対象 北海道札幌養護学校（本校）の全職員及び保護者
- (2) 期間 令和2年11月27日～12月25日
- (3) 方法
 - ① 教職員
ア 評価項目による4段階評価
(ア) 令和2年度の教育及び経営に係る基本方針に基づく具体的な検討課題（11項目）
(イ) 各校設定項目（5項目）
(ウ) 自由記述
 - ② 保護者
ア 評価項目による4段階評価
(ア) 学校の取組等を保護者の視点から把握するため、教職員アンケートの項目と同様の項目（11項目）を設定
(イ) 自由記述
- (4) 結果の処理
 - ① 評価項目による評価
4段階評価の回答に対して、それぞれ1～4ポイントを付与し「評価点」を算出する。
 - ② 自由記述
記述内容によりカテゴリーに分類する。

2 結果集計

- (1) 回収率
 - ① 教職員

学校名	全体数(人)	回収数	回収率(%)
札幌養護学校	159	159	100%
 - ② 保護者

学校名	全体数(人)	回収数	回収率(%)
札幌養護学校	311	242	78%
- (2) 評価結果集計表（別紙のとおり）
 - ① 教職員アンケート評価項目による評価
 - ② 保護者アンケート評価項目による評価
 - ③ 教職員・保護者の共通項目による比較評価
 - ④ 自由記述（教職員及び保護者）

3 「自己評価」の考察の観点

- (1) 次の観点から改善事項を考察する。
 - ① 教職員及び保護者の評価点
 - ② 教職員及び保護者の回答傾向（A～D評価）
- (2) 自由記述内容の傾向
- (3) 自己評価書における「達成状況」の評価の基準を、次のように設定する。
 - ① 「教職員」及び「保護者」アンケートの全ての項目の評価点の「平均値」及び「標準偏差」を算出。
 - ② 「平均値」から「+1標準偏差」までの評価点を「B」（おおむね十分である）とし、「+1標準偏差」より高い評価点を「A」（十分である）とする。
 - ③ (ウ) 「平均値」から「-1標準偏差」までの評価点を「C」（不十分である）とし、「-1標準偏差」より低い評価点を「D」（改善を要する）とする。

区分	全項目 評価点 平均値	標準偏差	自己評価の「達成状況」評価基準			
			A	B +1標準偏差以内	C -1標準偏差以内	D
教職員	3.30	0.35	3.64以上	3.63～3.28	3.27～2.93	2.92以下
保護者	3.63	0.16	3.80以上	3.79～3.63	3.62～3.48	3.47以下

- (4) 以上の観点から、各項目ごとに「達成状況」「取組の適切さ」の評価及び「検討事項・改善の方策等」を整理する。

4 「自己評価」結果（別紙）